

原子力事業者防災業務計画修正の要旨（大洗研究所）

1. 目的

原子力災害対策特別措置法（以下「原災法」という。）（平成11年法律第156号）第7条第1項の規定に基づき国立研究開発法人日本原子力研究開発機構大洗研究所の原子力事業者防災業務計画に検討を加え、修正することで適正化を図ります。

原子力災害対策指針との整合、機構対策本部組織の見直し、大洗研究所の組織改正に伴う修正、EALの一部見直し等を以下のとおり行いました。

2. 修正した日

令和6年4月1日

3. 協議した地方公共団体

茨城県、大洗町、銚田市

4. 主な修正内容

(1) 原子力災害対策指針との整合

本文中で表記される「初期被ばく医療」について、原子力災害対策指針で表記される名称に合わせて「原子力災害医療」に修正した。

(2) 機構対策本部組織の見直し

「別図-1(2) 機構の原子力防災体制及び機構対策本部組織」について、機構対策本部の組織に武力攻撃時等による災害発生時の指定公共機関としての対応体制を明確化するため、国等支援対策班を追加した。

(3) 大洗研究所の組織改正に伴う修正

「別表-3 原子力防災管理者の代行順位」について、令和6年4月1日付けの組織改正に伴い、副原子力防災管理者の追加及び削除、代行順位を見直した。

(4) EALの一部見直し

「別表-17」及び「別表-18」に示す緊急時活動レベル（以下「EAL」という。）について、所内外通信連絡機能の喪失に係るEAL（AL52及びSE52）については、「常陽」及びHTTRのみが適用となることから、施設区分の共通から「常陽」及びHTTRのEAL事象へ移行し、新たなEAL番号を付して見直した。

(5) 国土交通省、銚田市及び笠間市の組織名称の変更

令和5年5月10日（直近の修正）以降に生じた軽易な修正として「読替え表」を提出した、事務的な内容の変更に伴う修正を行った。

(6) その他の修正

上記に加え、記載の適正化等の所要の見直しを行った。

以上

大洗研究所原子力事業者防災業務計画の概要

第1章 総則

防災業務計画の目的、用語の定義、計画の運用にあたっての基本的な考え方及び修正する場合の手続き等について記載しています。

第2章 原子力災害予防対策の実施

大洗研究所の原子力防災組織・体制の整備、原子力防災管理者等の職務、原子力防災組織の運営、緊急時対策所・原子力施設事態即応センター・原子力事業所災害対策支援拠点の整備及び機能の維持、放射線測定設備・気象観測設備・原子力防災資機材・防災活動で使用する資料の整備、原子力防災教育・訓練の実施及び原子力緊急事態支援組織を含む関係機関との連携、周辺住民に対する平常時の広報活動等について記載しています。

「4. 主な修正内容」のうち、以下の項目に関する修正を含みます。
(2)、(3)、(5)

第3章 緊急事態応急対策等の実施

緊急事態等の区分（緊急時活動レベル）に応じた通報・連絡等の初期対応、応急措置の実施、原子力災害合同対策協議会との連携、原子力防災要員等派遣及び資機材貸与等について記載しています。

「4. 主な修正内容」のうち、以下の項目に関する修正を含みます。
(1)、(4)、(5)

第4章 原子力災害事後対策

原子力緊急事態解除宣言があった時以後における復旧対策の実施並びに被災復旧のための原子力防災要員等派遣及び資機材貸与等について記載しています。

「4. 主な修正内容」のうち、以下の項目に関する修正を含みます。
(1)、(6)

第5章 その他

他の原子力事業者で原子力災害が発生した場合の支援・協力について記載しています。

「4. 主な修正内容」のうち、以下の項目に関する修正を含みます。
(1)

以上